

令和7年度 学校評価の4点セット整理票(九重町)

1学期版

九重町立ここのえ緑陽中 学校

令和7年 4月 1日

| 【学校の教育目標】 | | 自立貢献 | | | | 資質・能力との関連 | | | |
|---------------------|--|----------------------|--|---|-----------------------------|--------------------------------------|-------------|-------|-------|
| 【育成を目指す資質・能力】 | | ①課題発見・解決能力 ②人間関係形成能力 | | | | | | | |
| 重点目標 | 達成指標 | 重点的取組 | | 取組指標 | 担当 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 学びの態度 | 学びの意欲 |
| 【知識を構造化させる力の習得】 | <p>○【生徒調査】「授業では教え合い学習(わからないところを友だちに聞いたり、教えたりする取り組み)ができて」の肯定率(4段階評価の4)を70%以上</p> <p>【教員調査】「生徒同士が教え合ったり説明したりし合う場面を単元に1回以上設定した」の肯定率(4段階評価の4)を80%以上</p> <p>【生徒調査】「授業の振り返りを自分の言葉でまとめてシートに書けた」の肯定率(4段階評価の3,4)を80%以上</p> <p>【教員調査】「授業の振り返りを自分の言葉でまとめてシートに記入させた」の肯定率(4段階評価の3,4)を80%以上</p> <p>【生徒調査】「家庭学習を90分以上取り組めた」の肯定率(4段階評価の3,4)を80%以上</p> <p>【保護者調査】「子どもが家庭学習を90分以上取り組むように声掛けをした」の肯定率(4段階評価の3,4)を80%以上</p> | 学校 | ○ 対話的な学びの推進 | ○ 授業者は、生徒同士が教え合ったり説明し合う場面を単元に1回は設定する。 | 高村 佐藤 岡松 河津 | ○ | ○ | | |
| | | | ○ 学習内容・学習過程の振り返りの充実 | ○ 授業者は、振り返り(毎時間)やポートフォリオ(定期的)を活用し、学習の成果や成長を可視化することで、自己評価や改善につなげさせる。 | | ○ | | | |
| | | 家庭 | ○ 家庭学習の習慣化 | ○ 保護者は、各学年で決められた時間(自学KS90)に集中して取り組むよう、家庭で声かけを行う。 | | ○ | | | |
| | | 地域 | | | | | | | |
| 【多面的・総合的に考える力の育成】 | <p>○「携帯スマホ等の使用に関する緑陽中学校自主ルール」についてのアンケートで、自主ルールを「守っている」と回答した生徒の平均を70%以上にする。</p> | 学校 | ○ メディアリテラシー教育の充実 | ○ 授業者は、SNSやインターネットを活用した情報発信の際の注意点や、情報セキュリティについて、学期に1回は情報モラルに関する授業を行う。 | 小幡 日野 河上 深瀬 | | ○ | | |
| | | | | | | | | | |
| | | 家庭 | ○ 親子ディスカッション | ○ 保護者は、ニュースや新聞記事を題材に、社会で起きている様々な出来事について、親子で意見交換する。 | | | ○ | | |
| | | 地域 | | | | | | | |
| 【学びに他者とう協力する力の育成涵養】 | <p>○ 以下のアンケートについて、肯定率(4段階評価において3以上)を70%以上にする。</p> <p>①生徒アンケートにおいて「人間関係づくりプログラムを行ったことでクラスメイトとの関わりが増えた」という人の割合で肯定的評価をしたと回答した生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>②生徒アンケートにおいて「単元に1回以上ICTを使って考えを交流する場面があった」と肯定的評価をした生徒の割合を80%以上にする。</p> | 学校 | ○ 良好な人間関係の構築 | ○ 学級担任(副担任)は、毎週1回、短時間人間関係づくりプログラムを実施する。 | 阿部 三重野 幸田 村田 小西 | | | ○ | |
| | | | ○ 協働的な学びの実施 | ○ 授業者は、単元に1回以上、生徒がICTを使って考えを交流する場面を設定する。 | | | ○ | ○ | |
| | | 家庭 | ○ 家庭内協力体制の構築 | ○ 保護者は、各自の家庭内での役割分担を明確にし、協力体制を構築する。 | | | | ○ | |
| | | 地域 | ○ 地域ボランティア活動の推進 | ○ 地域は、地域で行われているイベントやボランティア活動への中学生の積極的参加を呼びかける。 | | | ○ | ○ | |
| 【働き方改革の推進】 | <p>○ 学期末職員アンケートにおいて</p> <p>①月平均40時間以内に在校超過勤務時間を抑えられたという肯定的回答をする職員の割合を70%以上</p> <p>②「働き方改革の意識が進んだ」という肯定的回答をする職員の割合を70%以上。</p> | 学校等 | ○ 職員会議を学期に1回(年度当初を除く)にし、内容を精選することで放課後の時間を確保する。 | ○ 3役会・運営委員会を週1回開催し、そこで職員連絡会や職員会議や職員連絡会の内容について確認する。 | 校長・教頭・主幹・事務 | 該 当 す る 項 目 に ○ | | | |
| | | | ○ 平日における在校超過勤務時間を月平均40時間以内に抑える。 | ○ 計画年休の取得(学期中に最低2回取得する) | | | | | |
| | | | ○ 学校運営協議会の有効活用 | ○ 1学期の学校行事に関して、学校運営協議会として協力する。 | | | | | |